

## 平成29年度 学校関係者評価結果

1. 実施日：平成30年6月11日（月） 17：30～19：30
2. 場 所：九州医療スポーツ専門学校 201教室
3. 学校関係者評価委員
  - 堀内担志（九州共立大学特別客員教授）
  - 久保英二（福岡県立北九州高等学校校長）
  - 大森弘太郎（九州医療スポーツ専門学校同窓会会長）

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像等

評価平均	意 見	自己評価
<b>4.0</b>	<p>全職員が一丸となって、教育理念・目的・人材像が定められており、そのポリシーはこれからも大いに期待でき、高く評価する。</p> <p>また、医療とスポーツが連携することは人々の健康志向を更に高める要因であり、学生、教職員、地域と連携することによって、健康な社会の創造に十分寄与できるものと思料する。</p>	<b>4.0</b>

### 基準2 学校運営

評価平均	意 見	自己評価
<b>3.6</b>	<p>学校運営に関する事項、そのマネジメントは学校そのものの浮沈に即影響されるものである。具体的事項として、その運営方針、事業計画、運営組織や意思決定機能等、円滑なマネジメントが進められており、時代に対応した情報システムも構築化されていることから、健全な学校運営が進められているものと思料する。また、情報システムの管理、運営は全ての組織にとってこれからは重要となるので早急に対応する必要も感じる。</p>	<b>3.4</b>

### 基準 3 教育活動

評価平均	意見	自己評価
3.6	<p>学校の未来ではなく、学生の未来を左右するものである ので、卒業生は常に人と対応する場に参加する機会を増 やすのも良いかと思われる。また常に授業科目達成レベ ルに留意され、工夫を施し適切な指導を行い、各学科の 教育目標を教員・学生が共に理解を深め、向上していく ことを期待している。</p> <p>さらに評価アンケートは比較できるよう、年に2回実施 してはどうだろうか。</p>	2.7

### 基準 4 学修成果

評価平均	意見	自己評価
3.0	<p>各学科により成果の違いは異なるが、全体的に卒業後プ ロ選手のトレーナーなどで活躍しているが、卒業生輩出 後の職業実践教育の効果についての意見聴取や評価のた めの情報収集等の具体的な方法論について検討していく 必要があり、学生の将来を見据えたきめ細かい教育指導 が求められる。</p> <p>また更に、国家資格取得を目標として就職率100%に向か っている所は評価する。</p>	2.5

### 基準 5 学生支援

評価平均	意見	自己評価
3.3	<p>学生へのサポート、教務部、学生部など学生の立場にな ってサポート出来ていると思う。また学生相談の体制に ついては、外部のカウンセリングはもちろん、気軽に相 談できる為のスペースの確保など、支援がよく行われて おり、素晴らしいと評価する。</p>	3.0

基準 6 教育環境

評価平均	意見	自己評価
3.1	ハード面の環境改善は常に進んでおり、新校舎になり環境も整ってきていると感じる。学外実習については学生たちがこれから社会に出て働くという心構えを心身共に体験できる機会として良いことから体制を進められることを期待する。また、インターンシップはなるべくすべての学科で実施して欲しい。	2.9

基準 7 学生の募集と受け入れ

評価平均	意見	自己評価
3.6	学科も増え、募集数も増えている中で広報部をはじめグループ全体で募集に力を入れていると評価する。しかし、在学中から卒業までのデータを整理していくとより良いと思う。また、医療界で活躍するための人材になるにはどうすればよいか、という課題意識を明確にした者が入学できるように、全教職員が一致協力した体制の中で、進めていくことを期待する。	3.5

基準 8 財務

評価平均	意見	自己評価
3.6	財務基盤は学校の管理運営や教育・研究機能を円滑に進めることを保証するものである。中長期経営計画を策定し、財政基盤の安定を図る為に全教職員が共通理解をもって進められることを期待する。	3.0

基準 9 法令等の遵守

評価平均	意見	自己評価
3.3	十分に健全な運用がなされているが、より更に社会的信用度を高めていくのには、学生の教育など学校全体で取り組む必要がある。	3.6

基準 10 社会貢献

評価平均	意見	自己評価
3.6	市と連携協定を締結し、協力を図ることは、極めて重要なことであり、地域、市との連携が積極的に学生ボランティア活動に取り組んでいると評価する。	3.3

● 総 括

当専門学校は、設置された理念に基づき、学校運営、学生教育がなされており、財務、法令等の遵守事項、社会貢献等、その健全な運用は良好であると評価される。また、当学校では将来医療職に勤務する有能な人材を育成していかなければならないことから、現在、国民健康の大きな課題となっているので、少子高齢化にどのように対応すればよいか今後、大きな課題ではあると思う。医療専門職は、単に現在、目の前にいる人だけを対象とするのではなく、より広い視野をもって健康福祉社会の充実（健康な社会の創造）に向けた教育、研究等の実践活動を期待する。

平成30年6月28日

九州医療スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会